(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2012-76729
(P2012-76729A)
(43)公開日　平成24年4月19日(2012.4.19)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
B60R 21/02	(2006.01)	B60R 21/02	C	3B087
B60N 2/42	(2006.01)	B60N 2/42		
B60N 2/52	(2006.01)	B60N 2/52		

審査請求 未請求　請求項の数 1　書面　公開請求　（全 4 頁）

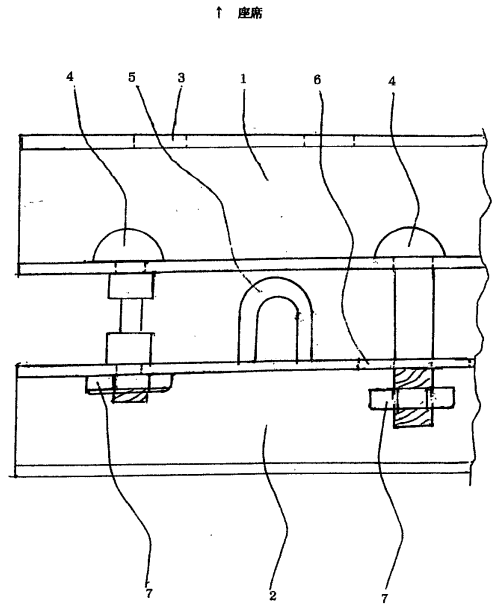
(21)出願番号　特願2010-261762 (P2010-261762)
(22)出願日　平成22年11月5日 (2010.11.5)

(71)出願人　511103443
蛭川　真
東京都大田区北糀谷２丁目１５－７－３０７　東カマタサンハイツ
(72)発明者　蛭川　修二
東京都品川区戸越３－９－８－１０２

Fターム(参考) 3B087 CD02 CD05 DD11

(54)【発明の名称】座席前後移動防止装置

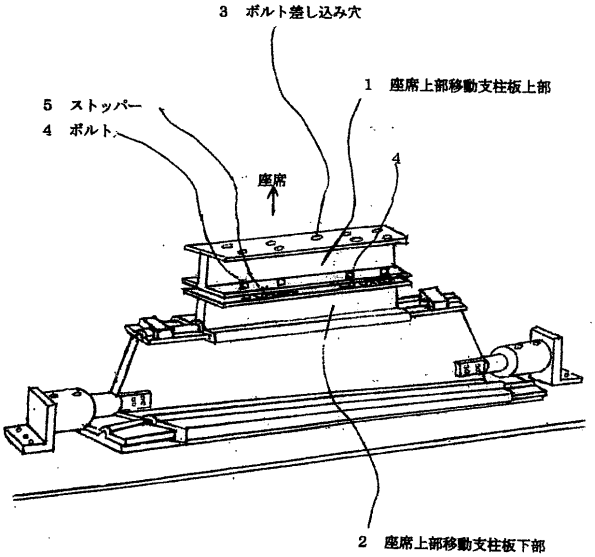
(57)【要約】
【課題】自動車事故は日常で起き、多くの負傷者・死亡者の発生で尊い命を犠牲にしてます。
現在は安全対策としてシートベルトの着用及びエアーバックが使用されておりますが、この事故発生から一層の身の安全対策が必要と思われます。本発明は油圧式衝撃緩衝装置に座席前後移動防止装置を取り付けて、人命救助の役割の一部を担う事を目的とする。
【解決手段】座席上部移動支柱板上部と座席上部移動支柱板下部との間にR形状のストッパーを設置し、形状の異なるボルト２本で上下支柱板を固定し、同時に座席横振れ防止穴を開け、上下支柱板をボルト２本で座席横揺れ防止穴にセットし、ボルトの下部にナットで固定した座席前後移動防止装置。
【選択図】図４



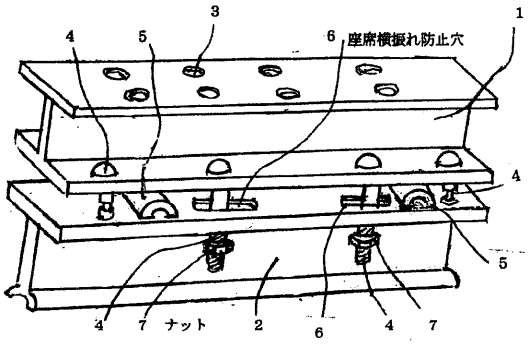
【特許請求の範囲】
【請求項１】
自動車床板と座席の間に油圧式衝撃緩衝装置を取り付け、座席上部移動支柱板を上下に中央の位置で横に切断し、座席上部移動支柱板上部と座席上部移動支柱板下部に分け、これを２本の形状の異なるボルト／ナットで固定し。座席上部移動支柱板下部にＲ形状に加工したストッパーを取り付けストッパーのＲ形状の最高部と座席上部移動支柱板上部に数ミリの間隔で設置する共に、座席上部移動支柱板下部の前後２ヶ所に座席横振れ防止穴を加工し、２本のボルトを差し込み一定の位置でナットで固定した座席前後移動防止装置。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は自動車の衝突及び追突事故に依る負傷・死亡事故から搭乗者の命の安全を守る為に、油圧式衝撃緩衝装置を車の座席の下に取り付けて、衝突瞬間時の強い衝撃力をこの装置に依り衝撃を緩和し、その緩和された衝撃でも、座席に多少の衝撃力が伝達し、座席の前後運動を起こすので、この座席の前後運動を遮断して、搭乗者の命を衝撃より守る座席前後移動防止装置である。
【背景技術】
【０００２】
現在の自動車衝突事故の衝撃力から身を守る安全装置は、搭乗者全員の装着安全ベルト及び搭乗者前面に設置されているエアーバック装置で構成されております。
【先行技術文献】
【０００３】
【特許文献１】　特願（申請）２０１０－１６７５５３
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
自動車搭乗員の衝突／追突事故から命の安全を守る手段として、シートベルト及びエアーバックが取り付けられておりますが、なお一層の安全を深める為に油圧式衝撃緩衝装置を座席下部に取り付け、この装置に更に油圧式衝撃緩衝装置からの残存衝撃力を座席前後移動防止装置に依り、衝撃緩衝力を遮断し、座席の前後の振れ、及び横振れを防ぎ、搭乗者の命を守る事です。
本発明は、以上の問題点を解決するものである。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
自動車床板と座席の間に油圧式衝撃緩衝装置を取り付け、座席上部移動支柱板を上下に中央の位置で横に切断し、座席上部移動支柱板上部と座席上部移動支柱板下部に分け、これを２本のボルト／ナットで固定する。形状の異なるこのボルトは一定の衝撃力が発生した時に、自動的に折れると共に、座席上部移動支柱板下部にＲ形状に加工したストッパーを取り付け、衝撃でボルトが折れた瞬間に座席上部移動支柱板上部が下部に落ちる為にこのストッパーで受け止め、この衝撃力に依る座席の前後動作を防止する座席前後移動防止装置である。
【発明の効果】
【０００６】
自動車衝突時の強い衝撃力が座席に伝達され座席の強い前後動作がこの座席前後移動防止装置で遮断され、命を危険から救う事が出来ます。現在のシートベルト及びエアーバック装置は安全面に大変に重要な役割をしておりますが、一層の安全を増す為にこの油圧式衝撃緩衝装置及び座席前後移動防止装置が役立つ事を目的とします。
【図面の簡単な説明】
【０００７】
【図１】　本発明の全体の斜視図

【図２】　本発明の使用状態を示す斜視図
【図３】　本発明の使用状態を示す斜視図
【図４】　本発明の使用状態を示す斜視図
【発明を実施するための形態】
【０００８】
以下、本発明の実施の形態を説明する。
（イ）座席上部移動支柱板を横に中央で分離し、座席上部移動支柱板上部（１）と座席上部移動支柱板下部（２）に分ける。
（ロ）座席上部移動支柱板上部（１）と座席上部移動支柱板下部（２）に４個のボルト差し込み穴（３）を設け、同時に座席の取り付けボルト穴（３）を加工しボルト（４）を差し込みナット（７）で必要位置に固定する。
（ハ）座席上部移動支柱板下部（２）にストッパー（５）を取り付ける。
（ニ）座席上部移動支柱板下部（２）に座席横揺れ防止穴（６）を加工する。この加工後にボルトを差し込み、一定の位置にナットをはめる。
本発明は以上の様な構造であるが、各図面について更に説明する。
図１　自動車座席下部の全体図
図２　座席上部移動支柱板上部を２つに分け、座席上部移動支柱板上部（１）と座席上部移動支柱板下部（２）に分離し、座席上部移動支柱板下部（２）に座席取り付けの為の、ボルト差し込み穴（３）を加工し、同時に前後の位置に２ヶ所の座席横振れ防止穴（６）を加工する。
その時に前後の位置に２個のストッパーを取り付けるその後に、２本の形状の異なるボルト（４）で上下の支柱板を固定させ、残りの２本のボルト（４）を固定位置に差し込む。
図３　上下の支柱板に４本のボルト（４）をセットし、２本の異なる形状のボルト（４）はナット（７）で固定する。残り２本は座席横振れ防止穴（６）にボルト（４）を通し、ボルト（４）の下部にナット（７）を定位置に取り付ける。
図４　この図は、上下支柱板の間に２本のボルト（４）を中間部を細く加工し、衝突時に瞬間的に折れ座席上部移動支柱板下部（２）からの衝撃力伝達を遮断し、座席上部移動支柱板（１）の座席の前後の動きを最大限に止める。取り付けられたストッパー（５）は最高部をＲ形状に加工しこの最高部と座席上部移動支柱板上部（１）との間隔を数ミリ開けておく。この２個のストッパー（５）の設定位置設定で衝突衝撃力が発生した時に、ボルト（４）が折れ、座席上部移動支柱板上部（１）が落下してこのストッパー（５）の最高部に当たりる。この瞬間に、ストッパー（５）のＲ形状で座席上部移動支柱板上部（１）を滑らし、衝撃力を最大限に緩和し、座席前後運動を押さえる。衝突時に横振れが発生した時に、座席上部移動支柱板下部（２）に前後２ヶ所にボルト差し込み穴（３）を加工し、上下の支柱板にボルト（４）を通して、一定の位置で固定する。このボルト（４）は衝撃時の座席の前後運動のストッパー（５）の役目を致します。
　上記の緩和された衝撃力で尊い人命を事故から守ります。
【符号の説明】
【０００９】
１　座席上部移動支柱板上部　　２　座席上部移動支柱板下部
３　ボルト差し込み穴　　４　ボルト　　５　ストッパー
６　座席横振れ防止穴　　７　ナット

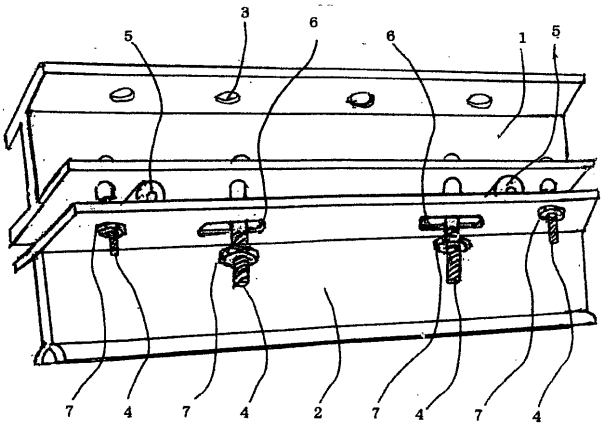
【図１】


3 ボルト差し込み穴
1 座席上部移動支柱板上部
5 ストッパー
4 ボルト
座席
4
2 座席上部移動支柱板下部

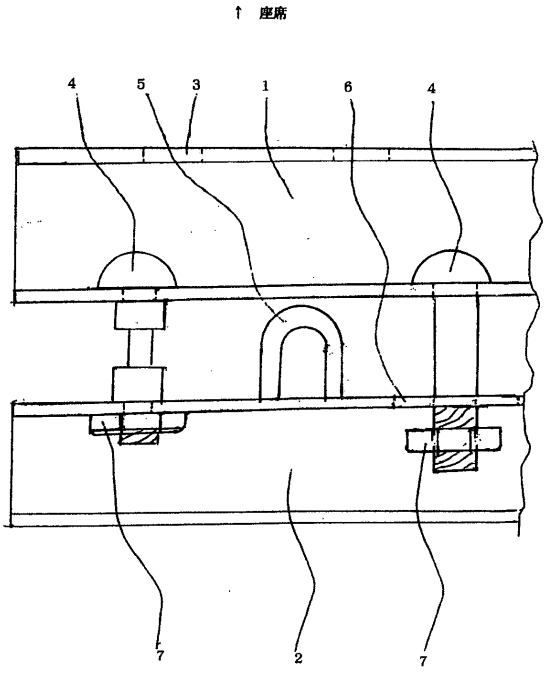
【図２】


3
4
5
6 座席横振れ防止穴
1
4
5
4 7 ナット 2 6 4 7

【図３】


3
5
6
6
1
5
7 4 7 4 2 7 4 7 4

【図４】


↑ 座席
4 5 3 1 6 4
7 2 7